

第 117 回番組審議会議事録

(株) 中国コミュニケーションネットワーク

■ 開催日時 令和 6 年 2 月 18 日 (木) 午前 11 時

■ 開催場所 中国経済クラブ (中国新聞社 8 階)

■ 出席者

① 委員側

・ 出席委員 5 人

木谷 健 (比治山学園理事長)

中川 元慧 (浄土真宗本願寺派善正寺住職)

向井 良 (弁護士)

吉田 朋子 (和奏光夜実行委員会代表)

片山 学 (中国新聞社文化担当部長)

・ 欠席委員 2 人

牛来 千鶴 (ソアラサービス代表取締役社長)

中川 圭 (乳がん患者友の会きらら理事長)

② 会社側 3 人

社長兼放送局長 小見山 文男

営業担当 久保田 正明

制作担当 渡邊 康美

■ 議 題

・ 開会あいさつ

・ 番組試聴「ピースロード」

・ ご感想・ご意見

・ 訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告

・ 質疑応答、その他

◇ 番組試聴「ピースロード」(2023 年 12 月 19 日放送)

被爆体験の継承や平和を目指して活動している団体の関係者、個人をゲストに招いて、取り組みなどを紹介する番組です。毎週火曜日午後 5 時から 30 分間放送しています。試聴回のゲストは、被爆者の体験談をオンラインで配信している広島市立大学国際学部 4 年の佐藤優さん。パーソナリティーは水田薫。

<番組に対する委員の意見・感想>

・ 広島にある放送局として、必要な番組だ。ずっと続けて欲しい。パーソナリティーが上手く学生から言葉を引き出している。ゲストは県外出身だが、県内の学生も協力して、活動の輪を広げてもらいたい。

・ 来年は被爆 80 年だが、現在、当時の成人はほとんど生存していない。リア

ルな体験談が聞けるのは、いまがほぼ最後と言ってもいい。貴重な証言をオンラインで届ける活動を放送局も支援したらどうだろう。

- ・ 重くなりがちな内容だが、今回は若者がゲストで聞きやすい。堂々とよどみなく喋っていて素晴らしい。ラジオを通して、若者の活動、活躍を伝えることは大切だ。大学生にフォーカスした番組がもっとあってもいい。
- ・ 番組は15年続けているが、被爆地のラジオ局として止めるわけにはいかなさう。オンラインを活用すれば国内外に発信でき、逆に海外の人たちのヒロシマに対する認識なども紹介可能なのではないか。新しい取り組みにも期待する。
- ・ ゲストの名前は中国新聞紙面でよく目にする。今回、番組を聞かせてもらい、彼女の活動内容がよく分かった。じっくりと聞かせる、聞けるのは、ラジオの特性だろう。

◇ 訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告

- ・ 訂正やリスナーから番組に関する苦情はありませんでした。
- ・ 2023年12月29日(金)～2024年1月3日(水)まで、年末年始の特別番組「初詣は二葉山山麓七福神めぐり」(1時間)を放送しました。

以上